

「なすかしの森 YONEX バドミントン合宿セミナー」報告

実施日：令和2年1月18日（土）～19日（日）1泊2日

場 所：国立那須甲子青少年自然の家、西郷村民体育館

【目的・趣旨／概要】

ヨネックスチーム現役選手による指導や選手との交流を通して、スポーツの楽しさを味わうとともに、スポーツすることの意味や意義を学びます。

【連携先】（団体名・講師名・連携内容等）

- ・ヨネックス株式会社 與猶くるみ選手・水津優衣選手
（機構本部からの紹介）
- ・西郷村教育委員会（共催）
- ・西郷村体育協会（後援）
- ・白河バドミントン協会（協力）

【募集対象／実績】

《募集対象》小学生～高校生バドミントン経験者 60名程度、引率等指導者 若干名

《実績》75名（未就学児1名、小学生19名、中学生31名、高校生9名、保護者15名）

※日帰り6名含む

【プログラム内容】（企画にあたって特に工夫したこと）

【1日目】令和2年1月18日（土）

① 13：15～15：20 実技指導（西郷村民体育館）

選手が主導となり、ウォーミングアップやデモンストレーション、技術指導を行った。

② 19：00～20：30 交流タイム（自然の家 キビタルーム）

アイスブレイクで和やかな雰囲気にした後、質問コーナー、選手からのメッセージを伝えてもらった。質問コーナーは選手2名が同時に質問を受けるものと、選手が分かれてグループごとに話す、2パターンで行った。

終わりに、子どもたち一人ひとりにサインを書いてもらった。

（2）2日目

① 9：20～11：30 交流ゲーム（西郷村民体育館）

コートごとにゲーム内容を変え、参加者が飽きないような工夫をした。また、出来るだけ多くの人とプレイ出来るよう、少ない点数で次の人へ交換するような流れで行った。



【成果】（目的に対する評価、参加者のコメント等）

- ・自然体験活動ではないが、個人(職員)の強みを生かせる事業だった。
- ・強力な助っ人(近隣バドミントン指導者)を発掘できたこと。→事前の相談や、事業の協力者を集めてくれるなど、何から何まで協力してくれた。多くの参加者とも事前に顔を合わせられたのも良かった。
- ・フェイス to フェイスで話すことは、誰がどんなことをしようとしているのかが伝わりやすいためプラスな結果を生みやすいかもしれない。(参加者獲得、助っ人獲得など)
- ・未就学児～大人までの様々な年代が集まって行った事業のため、世代間交流ができていた。
- ・練習内容が豊富で、時間を持て余す参加者が少なかった。
- ・福祉バスを借りるという新しい資源の発掘ができた。

《参加者の声》

「プロの選手と対決できたのが心に残った」「他校と一緒に練習できて良かった」

「選手から色々な話を聞いて良かった」「一流の選手の話は感銘を受けることが多かった」

「選手に質問をし、生の声を聞け、子どもたちの励みになったのでは？」等

【課題と方策】

- ・参加者の人数が多いため、選手との個々の関わりが薄かったように感じた。
参加者が何を求めているかにもよるが、人数はもう少し絞ってもいいかもしれない。

国立那須甲子青少年自然の家 [作成] 事業推進係：藤本樹